労働の解放をめざす労働者党

あくつ孝行（たかゆき）

67歳

労働者の代表として立候補した私の基本的な政策

私はまず二つの点について、基本的な2つの政策的立場を明らかにしたいと思います。

一つは、長時間労働、ブラック企業などに象徴される、搾取労働の即時廃止の要求です。

二つは、2千万人にも急増してきた非正規労働者や、低賃金や身分的不公平などに苦しむ女性労働者の間に広くはびこっている、差別労働の即時一掃の要求です。

こうした私の要求は、何か非現実的で、途方もないものに思われるかも知れませんが、事実上、安倍首相自身が、昨年の秋、「働き方改革」を謳い、同一労働同一賃金の実現を実行すると宣言したときに声を大にして主張し、公約したことにすぎません。

当時、安倍首相は、差別労働の廃止は「待ったなしの重要課題」と言い、また、「この日本から非正規労働という言葉を一掃する」と大言壮語しました。

長時間の殺人的労働の一掃は、「躊躇（ちゅうちょ）なしに行う」といわば公約しました。

これらの言葉は、長時間に及ぶ搾取労働や不当な差別労働を、最優先の課題とし、即時に、「躊躇なしに」行うという、首相の労働者、勤労者への公約ではなかったでしょうか。

しかし首相は言うだけで、まじめに実現しようという意思はありませんでした。同一労働同一賃金といっても、「会社への貢献度」なども評価すべき等々を持ち出して、差別労働の一掃に具体的に取り組む気配は全くありません、ただ一時のリップサービスです。

私たちは安倍政権に対し、我々の要求を断固として、迅速に実行し、実現するように要求します（もちろんその実現の仕方は、新しい法律を作るとか、首相の勝手ですが）。

小泉氏のこども保険による幼児教育無償化政策に反対します

小泉氏の主張は一言でいって、労働者の厚生年金などの保険料を引き上げて（労使共に0・5％ずつ、計1％）、それを財源に幼児の教育無償化を実現するというものです。

つまり労働者の負担で、政治家たちの人気取りのためにバラまきをするということです。

小泉氏は教育無償化の内容について、こども保険とは0歳児から5歳児のいる家庭に、労働者の保険料の引き上げを財源に、特別な給付をすることだと言います。しかし各家庭にカネをバラまくことは、教育無償化とは違います、と言うのは、バラまかれたカネが乳幼児のために、とりわけ「教育」のために支出されるといったこととは違うからです。

そもそも、乳幼児の保育といい、その「教育」といい、幼稚園と保育園が違った「理念」に基づいて共存し、しかもその両方とも公立、私立がそれぞれ無秩序に混在し、さらには保育所や幼稚園にも通わない乳幼児が4割もいるという現状を見るなら、こんな混沌を整理することなく、乳幼児の保育や「教育」の無償化と言っても空文句にしかなりません。

乳幼児「教育」と騒がれますが、日本は（世界でも）学齢年齢が決められ、規定されており、基本的に6才以上になっています。

小泉氏は幼児教育無償化は、社会保障を高齢者中心から乳幼児にまで及ぶ「全世代型の」ものに変えていくことだと言いますが、社会保障の比重が高齢者に傾くのは当然です。

必要なことは、この困難な社会保障問題を真剣に、合理的な観点で考え、解決することで、「全世代型の」社会保障について語るなど品が無く、高齢者には失礼だし、現役世代にも不愉快な発言です。そんなことをいって「全世代型の」バラまき政策を正当化しようとするなら、首相も小泉氏も「全世代型の」（つまり〝国民的な〟）非難の嵐に直面するだけです。

今働く女性や労働者にとっての、乳幼児に関する緊急課題は、待機児童を早急に一掃することであって、非現実的な教育無償化について空論をもてあそぶことではありません。

こうした無責任で、軽はずみな政策や発言を見ると、小泉氏はまさに、親父譲りか、安倍仕込みかは知りませんが、無原則のポピュリズム政治家の1人でしかありません。

この問題に限らず、結局は安倍政権や自民党の責任のある要職に次々とつき、しかも森友学園、加計学園等々、首相を中心とした国家ぐるみの権力犯罪については何一つ発言していません、つまりそれを擁護しているとしか取れません。

瀬戸氏よ、野党共闘は野党野合ではないですか

旧野党共闘は、共産党と市民派と民進党の共同でしたが、三者三様、根本的な思想や政治路線や政策さえ異なるのですから、それぞれ独自の政党や政治勢力として、自分の考えに従い、自分の独自の闘い方で、自分の最大限の力を出して闘い、全体としての闘いの力を高め、安倍政権を倒せばいいのであって、またあれこれの闘いの具体的場面や段階で事情が許し、客観的に意義があり、また両者が納得するなら協力すればいいのであって、最初から原則的な立場で異なる政党が協力しなくてはならないなどといって、お互いの原則を棚上げし、妥協して闘って、いい結果が出るはずもありません。

民進党の内部には自民党や保守陣営と同じ立場の人がゾロゾロいたのですから、重要なときに、そんな人たちが裏切る可能性はいくらでもあったのであって、そんな連中を信用し、仲間として統一戦線を組んだ志位氏が暗愚だっただけです。

私の経歴、考え、決意

国会を見るに、700余人もの議員はみな腐敗し、権力闘争にふける権力亡者となり、政治的詐欺師や、私利や特権を追い求めるだけの議員病患者のような連中ばかりです。

私は、この横須賀、三浦の地で育ち、小中高も学び、大学では教職の資格を得て、このふる里の地の県立三崎高校をスタートに県内の多くの高校で生徒たちとともに、生徒たちを愛し、教えるというより共に学びながら、教職の41年間を生きてきました。

私は20代の若い頃から、社会運動に生涯を奉げることを決意し、それ以来、一貫して働く者のために生きていこうと考えてきました。

今、都知事の小池や、民進党の解散にともなう政治家の出処進退や、彼らの腐敗や議員病、自分の利得やエゴや権力欲だけで右往左往するありさまを見ても、私の人生や生き方からすれば、あり得ない醜悪なさまに見えます。私は仮に国会に出て行っても、あんな議員には決してならない、ああした腐敗議員になるくらいなら死んだ方がましだと思います。

生まれも育ちも人生も、親譲りのエリート政治家とは共通点の何もない私ですが、働く人たちの声の代弁者、代表として、国会という闘いの場に送ってください。